

平成30年度事業報告

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

I. 避難者を支える活動

(1) 事業の成果と課題

今年度は、福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業を中心に四国に避難している方々への支援を行った。相談件数は減小傾向だが、見守り個別訪問や避難元への旅費支援金と連動させることで避難者の方々とのつながりを持続することができた。愛媛県内関係機関とのネットワーク作りでは、情報交換会を毎年2回開催していたが、7月に発災した西日本豪雨災害の影響もあり、開催が難しくなった。しかし、この愛媛県内関係機関とのネットワークは、西日本豪雨災害後の災害対応や被災者支援にも活かされていたのではないかと思う。課題としては、四国内の避難者の孤立を防ぐための避難者支援事業を継続させるためにどのような形で事業を進めていくのがよいか考えていかなければならない時期がきたと思っている。委託事業や助成金事業は再来年度（2020年度以降 復興庁が終了する時期）には打ち切りになるだろうと現在予測されているため、事業内容の面、資金の面など今のうちに考えていかなければならないと思っている。

(2) 事業の実施に関する事項

①（相談業務事業）

※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・事務所内を相談窓口として活用し、平日の10時～15時開所した。電話、メール相談などは随時対応した。相談件数については、下記表の通りである。

月	電話	メール	来所	相談会他	合計
4月	3	3	3	0	9
5月	0	3	3	0	6
6月	1	7	0	0	8
7月	1	16	0	0	17
8月	6	0	1	0	7
9月	4	0	2	0	6
10月	1	0	0	0	1
11月	9	0	0	0	9
12月	3	0	0	6	9

1月	0	0	0	0	0
2月	1	0	2	0	3
3月	12	0	1	0	13
合計	41	29	12	6	88

②（情報受発信事業）

※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

- ・情報受発信の本拠地として、情報受発信を行なった。
- ・機関誌『楽しんで！四国 L I F E 四国内避難者・移住者通信』を発行し、四国内の避難者約40世帯に郵送した。春号を6月、夏号を7月、秋号を11月、冬号を3月に発刊した。
- ・地域の情報コーナー、NPOサポートセンターなどに機関紙やちらしを配架していただき、広報活動にも努めた。
- ・交流会などの各種イベント案内は、その都度避難者の方々へちらし郵送した。
- ・ホームページ、フェイスブックについては随時更新を行った。
 - ホームページ <http://ehime311.official.jp/>
 - フェイスブック <https://www.facebook.com/Ehime311/>

③（交流会・相談会事業）

※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

- ・12月15日に福島県から四国に避難された方々対象の相談会・交流会を開催し、福島県庁から支援メニューの説明、復興の状況などが説明された。昼食後、個別相談ブースを設け、避難者一人一人の多様な相談に福島県庁、愛媛県庁、生活相談の専門家の方々に対応していただいた。

④（四国内避難者出張相談）

※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

- ・四国内避難者を対象にご自宅へお米を配布しながらの見守り個別訪問を行った。
- ・スタッフ2名で1回実施した。
- ・訪問件数は、愛媛：12世帯、香川：6世帯、高知：2世帯、徳島：3世帯 合計：23世帯訪問を行った。
- ・お渡ししたお米は、農業者の堀内さんに協力依頼し格安で譲っていただいた。

⑤（四国内避難者個別ニーズ対応支援）

※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

- ・一人一人のニーズに応じた支援を通年実施した。実施した内容は、病院送迎・同行、子どもの預かり、行政への手続き同行などを実施した。

⑥（関係機関とのネットワーク会議開催）

※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

- ・7月19日（木）愛媛県内避難者支援に関わる情報交換会を開催した。7月西日本豪雨災害の影響で行政や社協からの参加がなく、まつやまNPOサポートセンターとえひめグローバルネットワークと当団体との3団体の参加となった。NPO同士の災害対応や災害時の支援ネットワークづくりについて情報交換をすることができた。
- ・12月30日（日）NPO法人福島のこどもたち香川へおいでプロジェクトと共に、福島県いわき市で開催される交流会の担当だったため、交流会開催後に今後の支援活動や各県の避難者の状況など意見交換を行った。

⑦（愛媛県内における交流会～心行き交う盆踊り交流会～）

※福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業

- ・開催日時：9月22日（土）
 ※8月開催予定でしたが、西日本豪雨災害の影響があり9月へ延期した。
- ・開催場所：松山市 石手寺境内
- ・参加者：合計294名程度（内訳：来場者約200人、四国内避難者28人、福島から帰還者6名、スタッフ約20人、ボランティア約40人）
- ・当日のプログラム
 15：00～出店オープン 17：00～開会の挨拶 17：30～盆踊り第1部
 18：30～愛媛の民話の人形劇『広田と砥部のむかし～むかし』 おたこ組さん
 19：00～出店者スピーチ 19：15～盆踊り第2部 20：15～閉会式
- ・内容：相馬盆歌を避難者の方々に演奏し、歌い、踊り、避難元への想いを馳せたり、懐かしい気持ちになったり、ふるさと・福島を思う交流会となった。また、この盆踊り交流会で久々の再開を果たす避難者もあり、相談会などとは違う敷居の低い場だからこそ集まりやすいのだろうと思った。避難者だけでなく、地域の方々やボランティアの参加も多く、避難者と地域を繋げる場ともなり、今後つながりを増やせることも期待できる。孤立しがちな四国内避難者が交流会を通じて、避難元や避難先とのつながりを保ち続けていくことが暮らしを少しでも前に進め、幸福感を味わえることになればと思っている。
- ・一昨年度から話があった、櫓についてですが、レディフォーというクラウドファンディングで寄付金を集め購入しようと考え挑戦したが、達成できなかった。

⑧（福島県内における交流会～かけはしプラン参加事業～）

※福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業

- ・内容：各地域の7つの団体（福島避難者のつどい沖縄じゃんがら会、NPO法人福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト、一般社団法人ほっと岡山、関西広域避難者支援センター、NPO法人和、ふうあいネット）と連携し、福島県内で交流会を開催した。年間19回開催し、連携団体を通じ対象者に案内し、周知を図った。交流会の開催担当を分担し、会場費等の経費は担当した団体が負担し、交流会参加者への旅費は、原則として受付をした団体が担当して支給・精算をおこなった。交流会参加者の参加の確認をするため、参加者名簿を共有し参加証明書を参加者へ発行した。
- ・当団体は、7/28 いわき会場・8/11 いわき会場・1/5 いわき会場・3/24 いわき会場の計4回を担当した。福島県から様々な場所へ避難した方々がこの交流会を通じて再会し、交流していく場を作ることができた。また、ワークショップを開催し、参加者みんなで今の気持ちを言葉にしたり、これからのことを発表し合う場を設け、これからの選択する際の一助となったであろうと思っている。

開催日	郡山市	いわき市	福島市	白河	南相馬	合計
7月28日	51	11	22			84
8月11日	101	84	64	19	19	287
9月23日	95					95
12月30日	83	76	57		26	242
1月5日	43	11	22			76
3月24日	75	45	63			183
合計	448	227	228	19	45	967

⑨（本願寺旅費支援事業）

- ・四国内避難者の方々 17世帯 55名の方々が利用した。利用した理由は様々で世帯を分離して避難している方々は、家族との再会やお見舞い、母子避難者の世帯は、子どもたちと父との再会などを果たすことができた。
- ・予算を超えるほどニーズの高い事業となったので、今後も継続していけるよう要望していきたい。

⑩（健康診断実施事業）

- ・避難者からの要望が多かった甲状腺検査をはじめとする健康診断を愛媛生協病院の協力の下、実施した。当団体は、受診日の案内、受付窓口を担当した。合計で18人（男性7人、女性11人）の避難者が健康診断を受診した。年代の内訳は、20歳未満が10人、20～60歳未満が6人、60歳以上が2人であった。

⑪（避難当事者の抱える思いを形にするための“かけらむすびプロジェクト”事業）

※タケダ・赤い羽根広域避難者プログラム事業

- ・キャラバン事業を沖縄（6/24）北海道（9/2）東京（3/3）、セミナー事業を愛媛（8/3）大阪（11/8）で開催した。
- ・本事業を通じて、避難当事者が安心して語ること、自分の気持ちや思いを言葉にして誰かに話すことで避難当事者たちがエンパワメントするきっかけ作りになったのではないかと思う。

⑫（自立支援事業）

- ・協働オフィスの管理事務費を充てる。その他としてバザー出店などに積極的に参加し、同時に当団体の広報活動も行う。

Ⅱ. 被災地の復興に向けた活動

（1） 事業の成果と課題

保養活動事業としては、当初事業計画通り、すでに保養活動事業を実施している団体への後方支援という形をとった。また、7月に発災した西日本豪雨災害では、愛媛県内でも甚大な被害が出て、当団体でも何か支援活動ができればと思いながら、理事会を開催し、当団体でできることを話しあうことができた。当団体としては、今までの東日本大震災の被災者支援の経験を活かしながら発災後の緊急支援ではなく、緊急支援後の活動をできればという話でまとまった。当団体の事業としては、まずは東日本大震災の被災者支援が優先であり中心であることから、その事業に影響のない範囲で現時点では、無理せずに行えることからできる範囲で関わっていければと考えている。課題としては、もし、愛媛県内または、近県で災害が発災した場合にどのように動くかなど決めてこなかったため、どのように動いてよいか分からなかった。今後は、初動体制など検討し、改めていきたい。

（2） 事業の実施に関する事項

①（保養活動事業）

- ・福島の子どもたち香川へおいでプロジェクトが実施する保養プログラムに1名派遣した。（派遣時期：8/5～8/8 派遣者：新妻 龍）
- ・事業計画当初予定していた四国地区曹洞宗青年会の保養プログラムは、参加人数が少なく人手が足りていることから要請がなかったため、参加協力はなかった。

②（7月西日本豪雨災害における支援活動事業）

- ・愛媛県内で開催されている西日本豪雨災害支援の情報共有会議（えひめ会議、牛鬼会議、おんむすび会議など）に参加し、被災地の情報収集を行った。
- ・8月9日（木）以前からみかん提供など当団体で大変お世話になった吉田町の土居さんと明浜の宇都宮さんに対して、お見舞金を3万円ずつ渡した。同時に、被災地の視察を行い当団体で何かできることを考えた。
- ・11月23日（金）みかんがりボランティアを募集し、11名参加があった。吉田町の土居さんと明浜の宇都宮さんの園地へ向かいみかん収穫を手伝った。みかんを250キロ購入させていただいた。
- ・7月西日本豪雨災害後、NPO法人えひめリソースセンターの事務局が協働オフィスに移転した。移転後、当団体へ業務委託という形で電話対応、来客対応、郵便物の確認などの業務を担うこととなった。
- ・災害時の緊急対応ができるように、下線部分を付け加える形で定款変更を次回の総会時に行うこととした。

変更前→（予備費の設定及び使用）

第45条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

変更後→（予備費の設定及び使用）

第45条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費の使用は、理事会の議決を経なければならない。ただし、災害発生時等、火急の対応を要する場合は、代表理事の承諾をもって、これを使用可能とする。

Ⅲ. これから起こる災害に備える活動

（1）事業の成果と課題

講演会は、依頼があれば受けているが、当団体が主催して実施したものはなかった。古川ふれあい農園では、愛媛大学農部の学生たちと共同企画のイベントを実施することができ、参加者から多くの「楽しかった」というお声をいただいた。防災という固いイメージではなく、人が集まりやすいイベントになったのではないかと思う。課題としては、講演活動に関しては、依頼回数が少し減少してきたので、当団体の中では大切な自主事業であるので広報に力を入れていきたい。農園事業に関しては地域住民の参加が広がらないこと、地域にとってメリットのある事業であるかなど検討していかなければならないと考えている。

（2）事業の実施に関する事項

①（講演会・ワークショップ開催事業）

- ・震災の時の写真や映像などを使い、東日本大震災を振り返り、愛媛県内でも被害が想定されている南海トラフ地震をはじめ、7月に発災した西日本豪雨災害など、愛媛県内でも防災意識が高まっている時期でもあると思うので、起こりうる様々な災害を強く意識し、備えの大切さを愛媛県民に認識してもらうための活動を行った。

	実施日時	講演内容	実施場所	対象者	参加人数
1	4月26日	人権学習会	八幡浜文化会館	八幡浜市日赤奉仕団	80人

2	5月24日	人権学習会	中島姫ヶ浜荘	デイサービス利用者	10人
3	6月9日	自主防災組織審査会	松山市消防署	松山市自主防災組織	30人
4	6月20日	愛媛大学伊方フィールドワーク発表会	愛媛大学	愛媛大学学生	5人
5	7月6日	災害プロジェクト委員会	愛媛県社会福祉協議会	プロジェクトメンバー	7人
6	9月14日	人権学習会	中島姫ヶ浜荘	デイサービス利用者	15人
7	10月5日	高野山真言宗四国地区人権講演会	山の手ホテル	四国地区高野山真言宗関係者	50人
8	10月19日	松山市役所職員研修受け入れ	えひめ311事務所	松山市職員、松山NPOサポートセンター職員	7人
9	10月30日	人権学習会	入野福祉会館	地域住民	50人
10	10月31日	人権学習会	湯山小学校	生徒、教員、保護者	400人
11	11月21日	人権学習会	粟井公民館	地域住民	100人
12	11月22日	人権学習会	宇和公民館	地域住民	30人
13	1月20日	人権学習会	久万高原仕七川小学校	生徒、教員、保護者	40人
14	1月23日	防災意識アンケート実施	松山市コムズ	一般、イベント参加者	80人
15	1月24日	愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会	愛媛県社会福祉協議会	運営委員	10人
16	1月28日	震災体験と広域避難者支援	四国インクルージョンセンター	職員	15人
17	2月9日	人権学習会	湯山公民館	地域住民	10人
18	2月9日	人権学習会	持田公民館	地域住民	30人
19	2月24日	人権学習会	一万公民館	地域住民	30人
20	3月1日	災害VC中核スタッフ養成研修	愛媛県社会福祉協議会	プロジェクトメンバー、研修生	32人
21	3月2日	震災体験	松山バプテスト教会	地域住民	30人
22	3月2日	震災体験	東京都社会福祉協議会	地域住民	50人
23	3月10日	震災体験	岡山県立美術館 ホール	地域住民	多数

②（減災農園運営事業）

<古川ふれあい農園>

- ・古川ふれあい農園の運営管理業務を行い、農業を楽しむ場、交流の場、防災活動の拠点とした。
- ・6月3日（日）レインボーファームのレインボー祭りと共催で種まき祭を実施した。総勢30名ほどでじゃがいもや豆の収穫をした。子どもたちも5、6人参加しており、収穫を楽しんでいた。収穫した玉ねぎ、じゃがいも、豆をお土産に持って帰ってもらった。
- ・9月16日（日）愛媛大学社会共創学部の学生とのコラボ企画“古川地区の防災を考える会”を行いました。簡易テントを張り、住民と学生、被災者と一緒になって防災についての意見交換を行い、いろんな角度から防災について考えることができた。昼食は、学生さんたちが移動式窯でオリジナルピザを焼いてくれて参加者みんなで楽しくいただきました。

<東雲コミュニティファーム>

- ・NPO法人えひめグローバルネットワークと共に東雲コミュニティファームを利用した事業を行った。
- ・松山市立東雲小学校2年生の環境学習の場として6月にさつまいもの苗植えをし、11月には収穫を一緒に行った。